

## 視点・論点・ところてん

## 「教職員の多忙化問題を考える」②

## ①超多忙な時代

「放課後にストーブを囲んで、年配の教師からいろんな体験談を聞きました。それは授業に直接つながるものではないのですが、肥やしになっていく大事なお話でした。教師としての大切なことは雑談から学びました。」

こういう類いの話を今まで随分聞かされてきました。確かにそうですね。しかし、私には牧歌的にしか聞こえません。今の時代にそぐわない古き良き時代の美談としか聞こえないのです。

今は超多忙な時代。限られた時間の中で、どれだけ時間を有効に使えるのかと言うことに尽きると思います。学校づくり、職場づくりのダメな私が偉そうなことを言えないのは確かですが、私の普通を知って頂き、御意見頂けたらと思います。

## ②教師を多忙にさせているもの

教師を多忙にさせているもの。上からおりてくるいじめや学校評価のアンケート（幾度となく「正」を書いて集計するこの空しさ）。副読本の実施状況の報告書など数々の提出書類。子どもも巻き込まれる「青年の主張」（原稿用紙3枚以上書かせ学年1点を選ぶ。）「わたしたちのまちのおまわりさん」の作文（そんなにほめて欲しいの？）－希望者ではなく悉皆となっており、これらを通して子どもが作文嫌いになっていきます。また、

地域ウケを狙った「ありがとう週間」などの行事。地域の人にお礼の言葉をマニュアル通り言わせて、感謝の気持ちを表します。これらは本当に子どものため？と疑わしいものがいっぱいあります。反対の声をあげないといけないのですが、こういう日常が確実に訪れ、教師の限られた時間を圧迫しています。

## ③事務処理能力を高める

職場の若い人達は時間の使い方が下手だと私は感じます。夜の8時、9時、或いはそれ以上長い時間学校にいたら仕事をした気になっているのか、ダラダラダラダラしています。おしゃべりしていてよくぞ仕事ができるものだと感心してしまいます。年配の一部の人もそうです。そんな光景を目にする度に「早よ仕事を済ませて、サークルに足を運べ!!」と言いたくなります。

賢い教師になるためにサークルで学ぼうとしたら、その時間を捻出しないといけないので、どこかの時間を圧縮することが必要です。私の場合は朝早く学校に行って仕事をします。7時前に学校着き、Eテレ 0655 を教室で見えて一日が始まります。子どもが来るまでの間、教室の机を拭いたり、教材の準備をしたりします。子どもが来たら宿題を出してもらって、早速O打ちが始まります。いやがられるときもあるけど、宿題を出しに来た子どもにできるだけ声かけをするようにして

います。朝の打合せが始まる30分の間に事務作業を全部済ませることにしています。

私は、放課後に事務作業をしたくないので、朝に全て終えようとしています。中には自分が見られないのに自分の力量を超える宿題など出す教師もいます。プリントの宿題ばかり出して、その答え合わせを次の日の授業時間にするのです。授業の一部が〇付けをする時間になっており、これが常となっています。授業に真摯に向き合っているのか？と問いたくなります。

#### ④終わる時間を決めて会議を始めること

毎週月曜日、学年下校で子どもとさよならをした後、4時から1時間の学年会をしています。大事なのが終わる時間を宣言してから会議を始めることです。学年会の文書の一行目に、「早よやって早よ終わる」と書いています。

私の学校では、一ヶ月に一回支援学級のサポート会議というものがあります。支援学級と担任の学級の教師が集まり、子どもの様子を交流するための会議です。結構のんびりしており、笑いもある温かい会議なのですが、無駄話も結構多く、終わるのが6時半をこえることがあります。各クラスでの様子を話すのですが、これがまとまりのない話が多い。エピソードは具体が分かるが時間がかかります。エピソードから語るのではなく、話したい中身にエピソードを援用するのです。子どもの「話す・聞く」力をつけるための研究をする前に、教師がその力を問われていると思います。

ある時、その会議の開始時刻が5時からとなっていたので、私は担当者に、「15分で終わる会議なんてあり得ない。開始時間を4時30分にして、勤務時間内に終わるように明記してほしい。」と訴えました。結果として長引くのは仕方ないことだと思いますが、終わる時間を予め設定しておく、無駄話が

確実に減ります。

#### ⑤5時15分に消える宣言－労働者としての自覚を

最近は学年の代表を任されることが多いです。初めて組んだ若い人に「牧野先生と組んで帰りやすくなった」と言われることがありました。「若い人はこんなんでも気を遣っておるんやな」とその時は大変驚きました。子育ても一段落して、時間的に余裕のある年配のタラダラした話若くは若い人たちはつき合わされていたんだと思います。保育園に迎えにいかなければならない若い人、子育て中の人のことをもう少し考えてあげたらいいのにとと思います。年のいった教師が率先して早く帰るような職場にしていかなければ!!

我々は労働者だということを忘れてはいけません。勤務時間になったら仕事を終えて帰る。これはごく当たり前のことです。後の時間はどう使おうと本人の勝手ですが、帰れない空気が職場に流れているとすればこれは問題です。管理職が気づかない鈍感さも問題でしょう。こういった職場であるならば、尚更今の私のようなあと数年で終わってしまう教師がすぐに帰って見本を見せるべきだと思うのです。

「私は5時15分になると学校から消えるようにしていますので、能率良く会議を進めましょう」と言って毎週月曜日の学年会が始まります。 牧野満（奈良・下田小）

牧野さん投稿ありがとうございました。

編集部では

- ハンドルにあそびが必要なように、職員間のコミュニケーションも大事では？
- 労働者としての高い意識は確かに必要。そういった意味で職場の管理職に仕事のスリム化を要求するのは必要なのでは。と言った意見が出ました。次回は違う立場の方からの投稿も予定。もう少し続きます。